

司会者・字幕解説資料001

○寿式三番叟付五人囃子

寿と言う名のとおり、大変お目出度い踊りで、舞台の幕開け、清めの意味合いを込めて、演じられています。神楽の場合は、神楽三番と呼び、住吉大明神とする観念が一般化しています。演出は、能や歌舞伎とは異なり、オカメやヒョットコのお面を付けた五人囃子が登場します。

式三番叟は、舞台の悪霊を鎮め、舞台の四方を払い清める「地固めの舞」と、天下泰平と五穀豊穰を祈る「喜びの舞」を繰り返します。

五人囃子は、笛や太鼓で賑やかにお囃子をして式三番叟を囃し立てる、そのような役を演じています。

司会者・字幕解説資料002

○レクチャーアンドパフォーマンス

続きまして、江戸の里神楽と相模の里神楽を比較しながら、里神楽の解説と実演を行います。

垣澤社中の垣澤瑞貴さんに登場していただき、プログラムにありますように、囃子、舞地、神楽殿、所作、装束の面から江戸流神楽と相模流神楽の共通点、異なる点を話題としてもらいます。

その後に、神楽演目で最も知られている大蛇退治のハイライト場

面を演じてもらいます。

まずは、大蛇退治の物語内容をご案内します。

場所は、出雲の国、この国の国造神、足名槌、手名槌老夫婦には、
八人の娘がいました。

しかし、毎年、高志の国（北陸地方だと思います）から八俣大蛇が
やって来て、娘を一人ずつ吞まれてしまいます。

今年も、その時期が来たので嘆き悲しんでいました。

そこに、天照大御神の弟君である建速須佐之男命が通りかか
ります。出雲の国、肥の川上にさしかかった折り、櫛稲田姫と一緒
に嘆き悲しむ足名槌、手名槌に出会いました。

泣いている訳を聞き入れ、八俣の大蛇を退治し、姫を助ける約
束をしました。

スサノオは、老夫婦に八塩折の酒を造らせ、大蛇にその酒を吞
ませ、酔った大蛇を見事に退治しました。退治した大蛇の尾から
立派な剣が現れ、後に三種の神器となった草薙の剣が生まれまし
た。

命は約束通り、櫛稲田姫と結婚し、須賀の地（松枝市）に立派な
宮殿を造り、「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠めに 八重垣造る その
八重垣を」と、お詠みになり、出雲の国を立派に治めることになっ

たと言うお話です。命の詠んだこの歌は、我が国最古の短歌とされています。

スサノオと大蛇の戦いの場面をこれからご覧いただきます。この神楽の演出により、相模里神楽の特徴がご理解いただけると思います。

司会者・字幕解説資料003

○天之磐扉（あまのいわと）

天照大御神の弟、建速須佐之男命は、高天原で再三にわたる乱暴狼藉らんぼうろうぞくを働きます。大暴れします。

我慢の限界、とうとう怒った天照御大神は、岩穴の中に入って、扉を閉めて、隠こもってしまいました。

すると、高天原はもとより、私たちが暮らす、豊葦原中津国とよあしはらのなかつくにはも真っ暗闇になってしまいました。

困った八百方やおよろずの神様が集まり相談しました。知恵がある神様、天之思兼命あめのおもいがわのみことがアイデアを出して、天之鈿女命あめのうずめのみことが大御神様を慰める舞を奉納することになりました。この舞が神楽の起源です。

神遊び、神を和ませる、そんな意味を持つ「神楽」の大元は、この出来事によるものだと言われています。

鈿女命の神がかった舞の面白さに、八百万の神々は、一度にどつ
と笑ったそうです。

岩穴に隠れていたアマテラスは、外が騒がしいので様子を見よう
と扉を細目に開けたそうです。

その時、怪力無双の天之手力男命^{あめのたちからおのみこと}が岩戸を押し開き、大御神様を
外にお招きだし、再び、高天原と豊葦原中津国も明るくしたそうで
す。元の平和な世の中になったと言うお話しです。神社の祝いの時
に奉納される神楽十八番と言われる大変お目出度いお神楽です。